

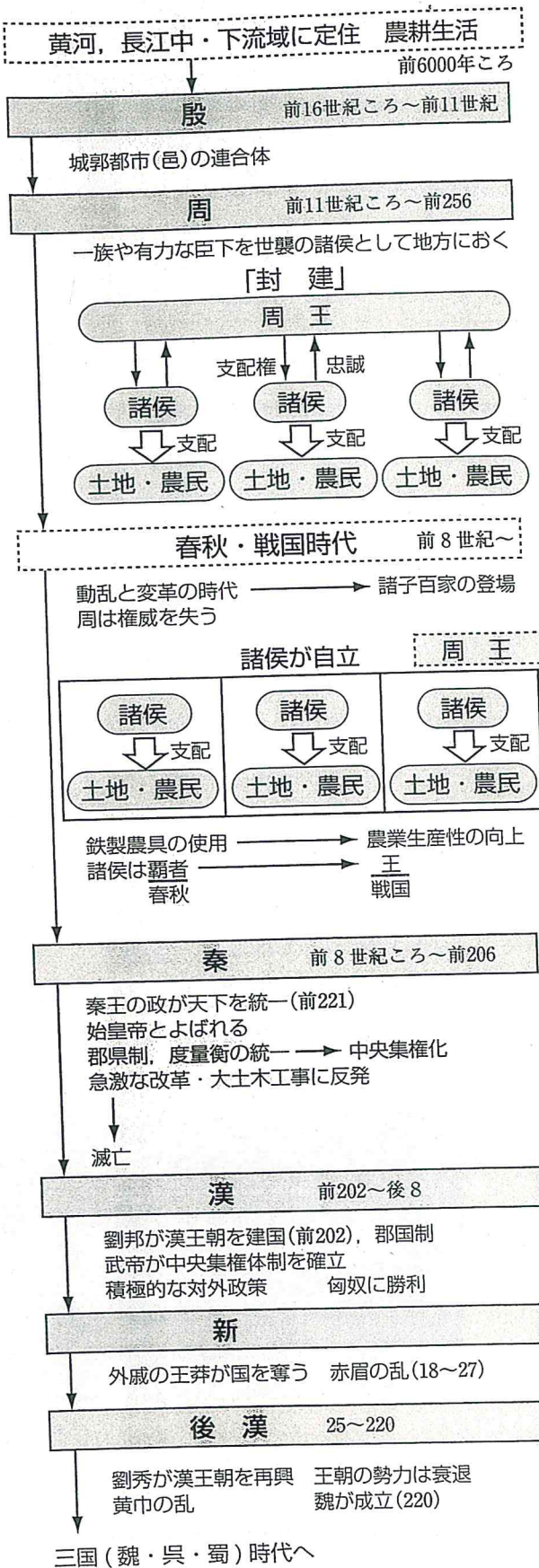
臨時休校用 世界史 A 課題

②

- ・ 授業内容プリント 4 枚
- ・ ニュース課題用紙 2 枚

- ・ 授業内容プリントは、世界史 A の教科書を使うこと。
- ・ ニュース課題は、臨時休業中（4～5月）の自分が興味を持ったニュースをまとめ、感想を書くこと。
- ・ 文字は丁寧に書くこと!!
- ・ 提出状況、内容は第 1 期の評価にいきます。
- ・ 時間を有効活用しよう!!

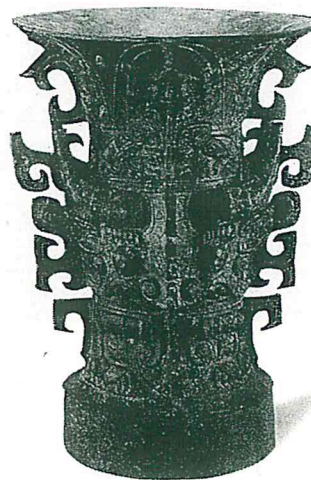
組 番 氏名



中国文明の誕生

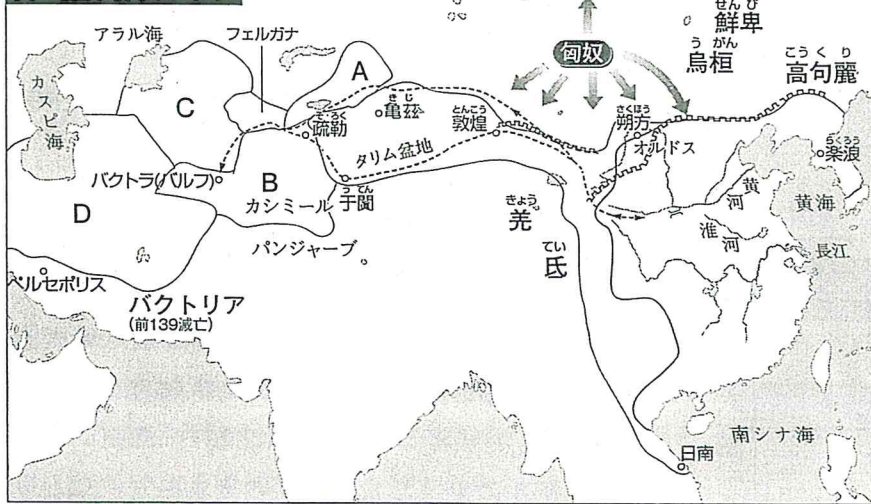
東アジアでは前6000年ころまでに、(1) 流域でアワ・キビ、(2) 流域でイネの栽培を中心とする農耕文明がうまれた。農耕民たちは集落に集住し、その集落同士の争いから城壁でかこまれた城郭都市が發展した。そうした大小の城郭都市はやがて連合し、前16世紀ころ、華北において殷(商)王朝をうみだした。城郭都市の連合体である殷が直接支配する地域は限られていたが、祭祀にもちいられた殷のすぐれた(3) は中国各地に普及して影響をあたえ、国事を決める占いに使用された甲骨文字は漢字の原型となった。

前11世紀ころ、(4) 盆地におこった周は殷を倒し、王の一族や有力な臣下を世襲の(5) として各地においた。周は(5) たちには忠誠を誓わせ、そのうえで土地と農民の支配を完全にまかせる(6) 制によって統治した。しかし、(5) はしだいに国として自立し、多くの国がたがいに争う分裂期にはいった(春秋・戦国時代)。各国は富国強兵策を推進し、中央集権化をすすめた。同時に、広く有能な人材を求めたことから多くの学者が登場し、儒家・道家・法家などの多様な思想がうまれた((7))。この時代は、(8) 農具の登場で農業の生産力が増したほか、商工業や物資の流通もさかんになり、都市も發展し、各地で固有の形をした貨幣も鑄造してもちいられるようになった。



殷の(ア) (イ)の像

秦・前漢時代のアジア



秦の支配領域を塗りなさい。

- (A)
- (B)
- (C)
- (D)

用語解説

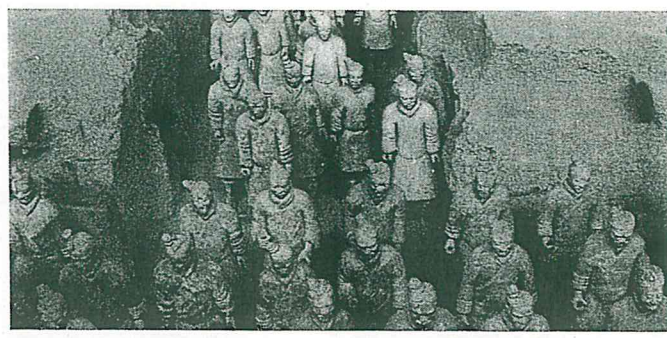
華夷思想…漢民族支配地域が文化の進んだ地域であったことから、「中国」としての意識をもつようになる。その一方で、言語や風俗の異なる周辺の地域の人々を「夷狄」として劣ったものと見なす考え方。

秦・漢時代

前221年、中国を統一した秦王の政は、皇帝を称し(9)、封建制にかわる(10)制を全国に施行し、皇帝が任命した官僚を派遣して各地を統治する中央集権の政治をおしすすめた。また、法治主義を徹底し、(11)・貨幣・(12)を統一した。しかし急激な改革と万里の長城建設などの大規模な土木工事や対外戦争による大きな負担から、兵士や農民が各地で反乱をおこし、(9)の死後まもなく秦はほろんだ。
匈奴の侵入 陳勝・呉広による農民反乱

秦末の覇権争いに勝った農民出身の(13) (高祖)が前202年にひらいた漢王朝(前漢)では、当初に施行した郡国制によって国内に諸王の反乱が生じたものの、やがてこれを平定した。そして第7代の(14)帝のころには秦と同じように皇帝が全土を直接支配する体制を実現し、官学化した儒学(儒教)の統治原理によって、多くの官僚をもちいる皇帝中心の政治体制の基礎がきずかれた。(14)帝は積極的に外征をすすめ、北方にいる騎馬遊牧民の(15)をしりぞけて広大な領土を形成し、西域や朝鮮半島・ベトナム北部に影響をおよぼした。しかし、(14)帝の積極政策は財政難をまねき、皇后の親族(外戚)や皇帝の側近である(16)による政治介入で混乱するなかで、外戚の(17)によって前漢はほろぼされ、新がたてられた。

これに対し、豪族をひきいて新をほろぼした(18)は光武帝として即位し、後漢をたて、皇帝を中心とする体制が進展した。しかし、2世紀になると、北方の諸民族の圧力が増したうえ、国内では豪族勢力と(16)・外戚の争いが激しくなり、(19)をきっかけに各地に軍事勢力が割拠し、後漢は滅亡した。



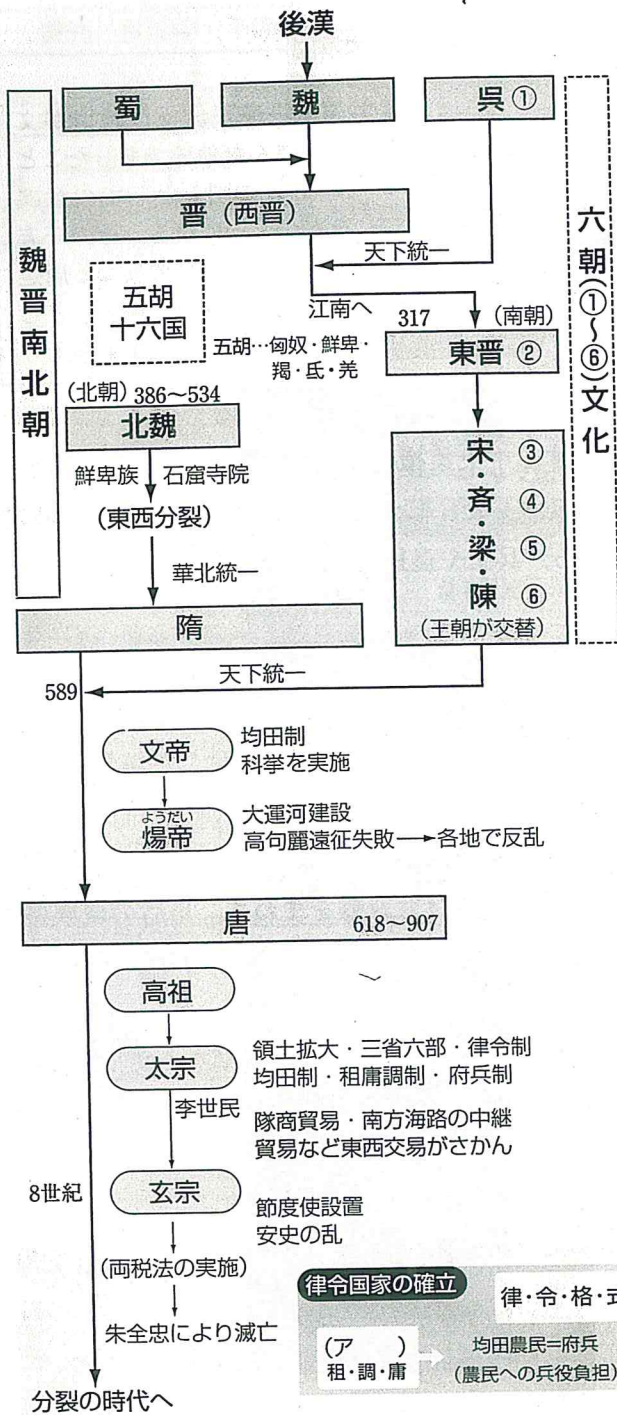
(ウ)



(エ)の仏像

調べてみよう！

インドでうまれた仏教が中国仏教として根をおろしたが、仏教による民間の秘密結社が大規模な反乱を引き起こすこともあった。当時の王朝は仏教にどのような対応をしたのだろうか。



北方民族の侵入と隋・唐の統一

漢にかわって220年に(1)が成立すると、中国は(1)・蜀・呉のならびたつ三国時代ではじまる(2)と総称される分裂の時代となった。北方民族の侵入が続くなか、鮮卑のたてた(3)が華北を統一して(北朝)、江南の漢人諸王朝(南朝)と対立した。北朝と南朝の対立は北朝から出た隋が国内を統一して終止符をうち、つづく唐にうけつがれた。(4)をおしすすめた(3)が施行した(5)は北朝をへて隋・唐に引きつがれた。南朝によって江南地方の開発もすすみ、仏教や道教の発展、絵画や書道などの新しい文化が発達し、北方民族にも広がった。こうして皇帝を頂点におく中国独特の政治体制のもと、中国と北方周辺域との一体化が大きく進展した。

隋では初代皇帝の文帝が官僚の登用資格試験である(6)を本格的に導入し、第2代の煬帝は華北と江南を結ぶ(7)を完成させて南北の一体化をすすめたが、大規模な公共工事の負担や(8)遠征の失敗から各地で反乱がおり、隋は短期間でほろんだ。

隋を倒した唐は第2代の(9)の時代に中国統一を完成させて繁栄期をむかえた。刑法としての律、行政法としての(10)を制定し、(11)を中心とする中央の官僚制や(6)を整備し、税制((12))や軍事制度((13))を確立して政治体制を強化した。しかし、8世紀なかばの(14)の結果、各地で(15)が割拠し、唐の体制も大きく転換をせまられていった。

調べてみよう!

中国王朝の興亡にはパターンがありますか? 王朝の誕生前の状況、統一王朝の盛衰、大規模な反乱の3つの点を王朝ごとに調べてみよう。

東アジア世界の形成

朝鮮半島をつうじてはやくから中国文化の影響を受けていた日本については、3世紀ころ、⁽¹⁶⁾

⁽¹⁾が三国の()に使節を派遣したことが中国の記録に残されている。4世紀にはいってヤマト政権による統一がすすんだ日本は、7世紀から遣隋使や⁽¹⁷⁾を中国に派遣し、その文化や制度を学んで国づくりをすすめた。

朝鮮では4世紀のなかばから高句麗・新羅・⁽¹⁸⁾がならびたつ三国時代になったが、7世紀後半、新羅が唐と結んで半島を統一した。新羅では首都⁽¹⁹⁾を中心に仏教文化が花ひらいた。また、高句麗の子孫がつくった中国東北地方の⁽²⁰⁾、チベット(吐蕃)、雲南(南詔)なども中国文化の強い影響を受けつつも独自の国家を形成した。

このように中国の周辺諸地域における国家形成がすすむなかで、それぞれの諸国が中国の王朝に⁽²¹⁾したり、あるいは中国から⁽²²⁾によって爵位・官職を与えられるなど、中国を中心とする⁽²¹⁾・⁽²²⁾関係がづくりあげられた。こうした⁽²¹⁾・⁽²²⁾関係は、19世紀にいたるまで東アジアの国際秩序を形成するための重要なシステムとなった。

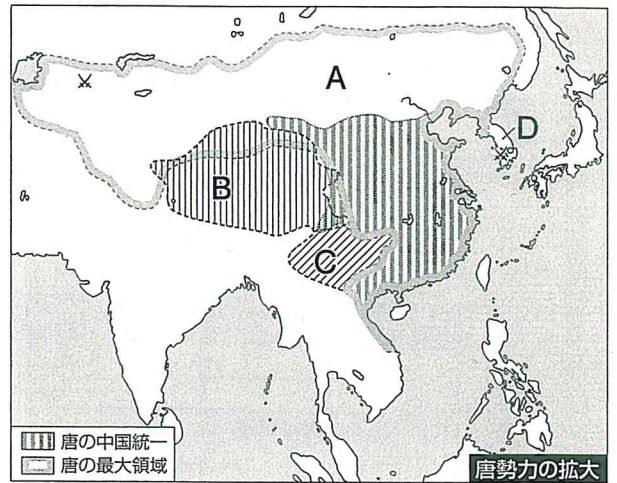
唐は、充実した集権国家機構と豊かな国力で四方に遠征し、漢の領域をはるかにしのぐ大帝国を形成した。唐の勢力は一時、東は中国東北地方から朝鮮、西は中央アジア東部、北はモンゴル、南はベトナムと広範囲におよんだ。内陸ルートや南方海上ルートによる交易の進展と諸外国との活発な交流もあり、独自の国際文化を



を開花させた唐の文化は周辺地域に強い影響をあたえ、広大な東アジア文化圏の中心になった。

確認しよう!

- 🔑 (朝鮮の三国時代)
1. 日本が味方した百濟の位置
 2. 高句麗の支配が中国東北地方に及んでいたこと。



(A) (B) (C) (D)



(オ)の石仏
北魏の時代にこのような石仏が多数つくられた。仏像の顔は鮮卑族(皇帝の顔)ともいわれる。

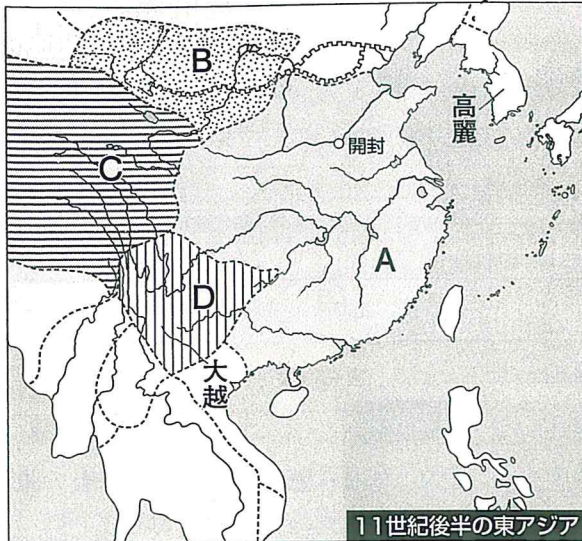


人物名を入れなさい。
左(カ))
右(キ))

◎新しい漢字と徳川光圀の「圀」

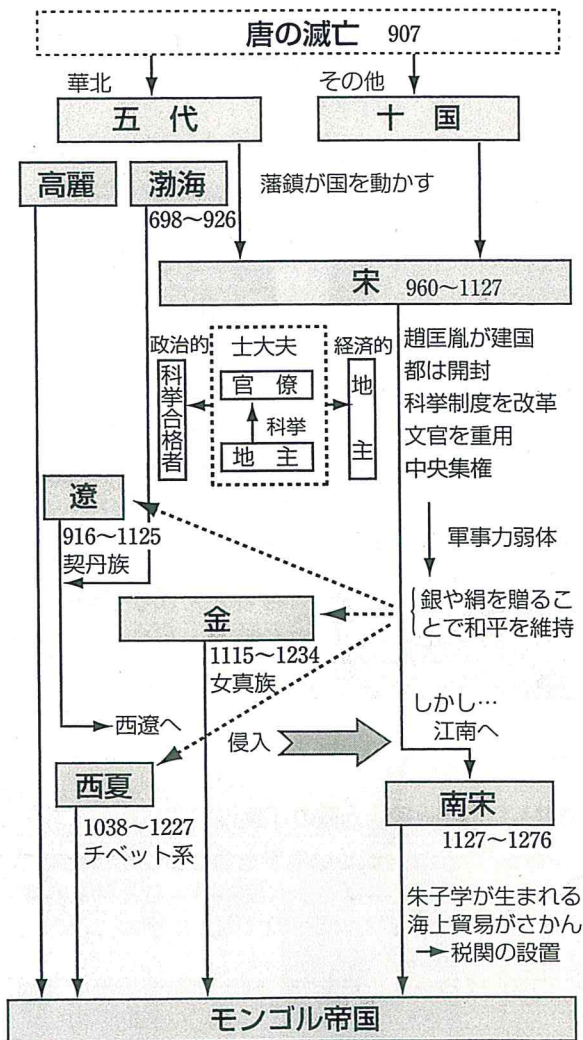
(キ)の女帝は、新しい漢字をつくらせたことで知られます。日本ではほとんど使われることはありませんが、徳川光圀や本圀寺の「圀」の字が、このときにつくらせた漢字です。

「圀」は國を改めた字で、國は国構えの中に「惑う」と書くことから忌み嫌い、国構えの中に「八方」と書く字をつくらせたといひます。



11世紀後半の東アジア

Ⓐ (A) (B))
 (C) (D))



東アジア世界の变容

10世紀初めの唐の滅亡は、それまで政治制度や文化をとりいれていた周辺諸国にも変動をもたらした。日本では遣唐使の派遣を停止した後、しだいに国風文化が広まった。朝鮮では10世紀前半、(1)が建国されて新羅・渤海はほろび、雲南では南詔にかわって(2)が生まれ、ベトナムも自立へと向かった。

10世紀以後、華北では約(3)年のあいだ五つの王朝が交替し、華中・華南にも10あまりの国が興亡した(五代十国)。この時代、武力をにぎった(4)

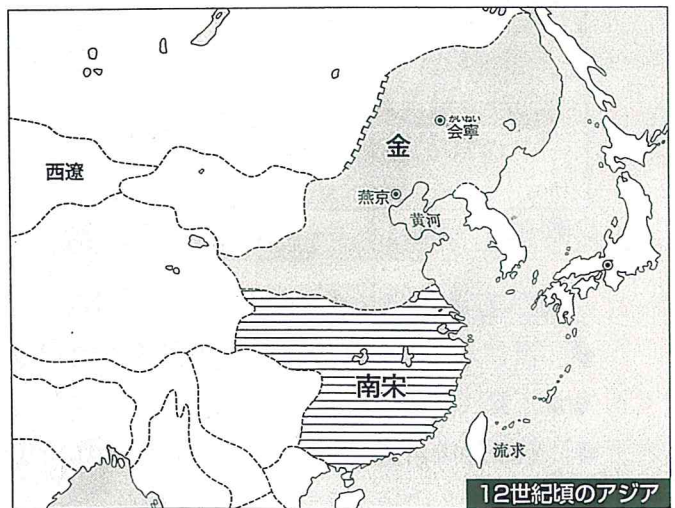
)が国を動かす、貴族にかわって広大な土地を所有していた地主が社会的な影響力をもつようになった。

960年、(4)であった(5)がこの混乱をおさめて宋(北宋)を建国し、(6)を都とした。

宋は武人にかわって(7)を重用し、(8)

)制度を改革して中央集権をすすめた。宋の時代は地主が大きな力をもっていたが、彼らは(8)をとおして(9)となり、特権を

えて独特な文化を形成した。(6)などの都市ではそれまでの各街区をかこむ壁がなくなり、商店が大通りに面して営業するなど、商業への規制もゆるやかになり、商人の活動は活発化した。このころから海上交易にも中国商人が本格的に進出するようになり、東アジア世界の一体化がさらに広がることになった。



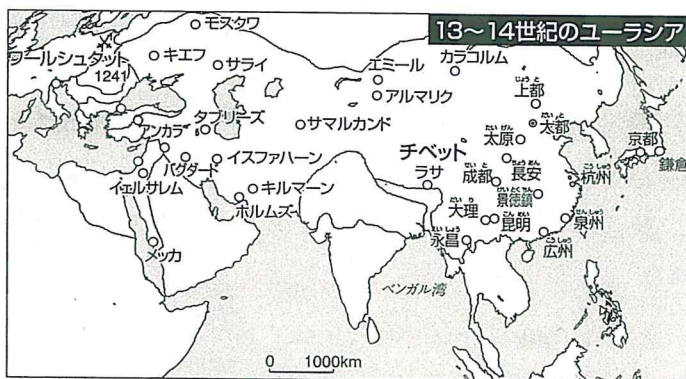
12世紀頃のアジア

北方民族と中国との一体化

中国の北方では契丹族の⁽¹⁰⁾が登場して渤海をほろぼし、さらに華北の一部を占領した。西北方面ではチベット系の⁽¹¹⁾がうまれて西域の交易路をおさえた。12世紀には東北地方から女真族の⁽¹²⁾がおこって、⁽¹⁰⁾をほろぼした後、宋も破って華北を支配した。

これらの国は宋の官僚制度や文化をとり入れる一方で、独自の文字をつくるなど、民族的な自覚を高めた。これらの国に圧迫された宋は、毎年⁽¹³⁾や絹をおくことで和平をはかったが、12世紀前半、⁽¹²⁾に敗れ、江南にのがれて国家を再建し(南宋)、中国を二分する態勢がかたまった。南宋では儒学の分野で⁽¹⁴⁾がはじまり、江南の開発が進展するとともに、海上交易もさかんになり、中国商人は東南アジア方面に進出した。

13世紀になるとモンゴル高原を統一した⁽¹⁵⁾が大征服活動を開始し、モンゴル帝国をつくりあげた。その後、後継者争いを制してハン(部族統合者の称号)となった⁽¹⁶⁾のたてた元は、南宋をほろぼし、万里の長城以北におこった北方民族の国としてはじめて中国を統一し、モンゴル系の人々が中国の皇帝を名乗って中国本土を支配するようになった。こうして北アジアと中国との一体化が急速に進展することになった。



④ p.22 の地図をみてモンゴル帝国の最大領域に色を塗ろう。

調べてみよう！

漢字からうまれた文字にはどのようなものがあるか、調べてみよう。

④ p.20の「清明上河図」をみて、宋代の都市ではどのようなことがなされていたのか、調べてみよう。

資料 宋の経済発展～紙幣～

交子(紙幣)の法は、唐の飛銭に由来する。真宗(第3代皇帝)の時、張詠が蜀に鎮した。時に蜀の人々は、鉄銭が重く貿易に不便で困っていた。そこで質劑(手形)の法を設けた。一交一緡とし、3年を一界として交換し、65年で二十二界とした。これを交子といい、富戸16戸が司った。

(『宋史』食貨志 下)

流通していた鉄銭が重いので、3年を期限とした手形を発行し、これが交子となった。商業の発達で宋代の紙幣の発行を促した。

用語解説

五代…華北に興亡した後梁・後唐・後晋・後漢・後周の5王朝。後はすべて「コウ」と読む。唐をほろぼした朱全忠が後梁を建国。後晋は、建国の時に、契丹の力を借りたため、燕雲十六州を割譲した。のち、宋代になっても奪還できなかった。
渤海…大祚栄が建国。靺鞨人と高句麗の遺民からなる。契丹の耶律阿保機によってほろぼされた。

西夏…チベット系タングート族の李元昊が建国。宋と慶暦の和約を結ぶ。

遼…耶律阿保機が建国。宋と澶淵の盟を結ぶ。北方民族と農耕民を分けて統治。

金…女真族の完顔阿骨打が建国。猛安・謀克という軍事・行政組織をつくった。

イル=ハン国(1258～1353)

…フラグがイランに建てたモンゴル政権。

キプチャック=ハン国(1243～1502)

…バトゥが南ロシアに建てたモンゴル政権。

チャガタイ=ハン国(1227～14世紀後半)

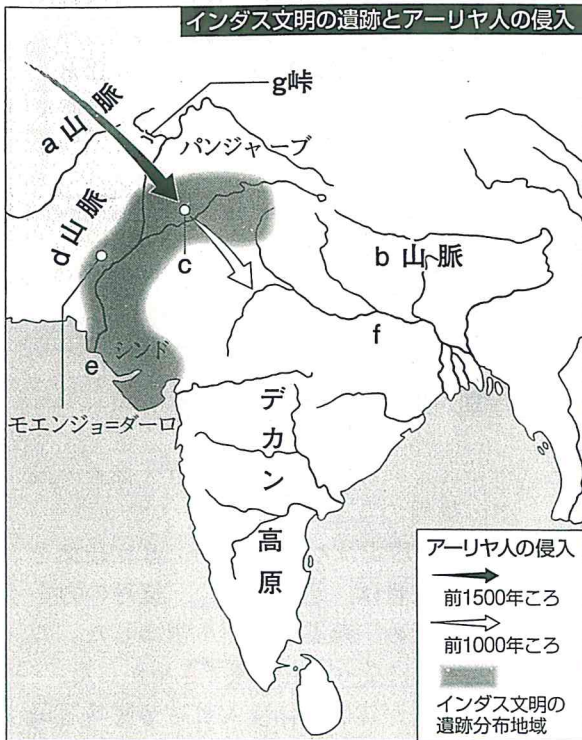
…チャガタイとその子孫を君主として東西トルキスタンに建てたモンゴル政権。



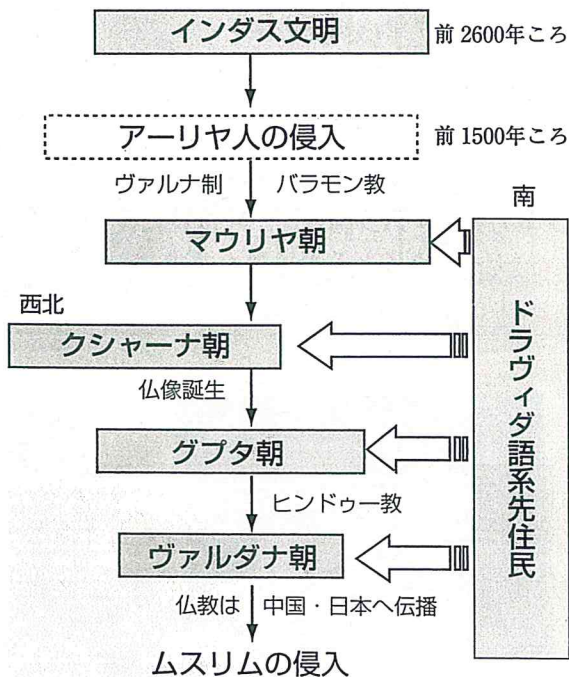
④ (ア)

)

フビライ



- (a) () 山脈 (b) () 山脈
 (c) () (d) () 山脈
 (e) () 川 (f) () 川
 a 山脈の切れ目となる峠は (g) () 峠



ヒन्दウー文化と仏教文化の形成

南アジアの古代文明は、前2600年ころに(1))川流域でうまれた。(1))文明とよばれるこの文明がおとろえた後、前1500年ころに、(2))が中央アジアから西北インドに進入してきた。彼らはその後、(3))流域にも進出し、そこに多くの王国をきずいた。これらの王国が争うなかで、やがて(4))のように、より広い範囲を支配する強大な国家があらわれた。一方、(2))に追われた先住民である(5))の人々は、南インドに定着し、その地で独自の文化を形成した。

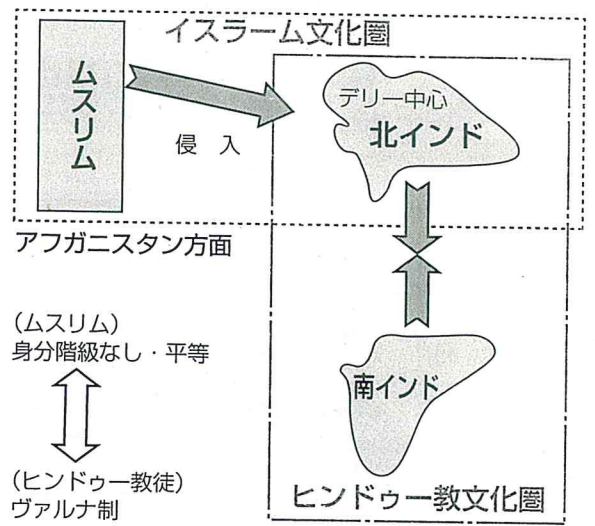
自然神を崇拝しさまざまな祭式をおこなった(2))がまとめた宗教文献群がヴェーダであり、ヴェーダを聖典として成立したのがバラモン教である。また、(2))が南アジアに定着する過程で、(6)) (司祭)・(7)) (武士・貴族)・(8)) (一般庶民)・(9)) (隷属民)の4身分からなる(10))が成立した。これがその後複雑化し、固定化して成立したのがカースト制度である。

前6～5世紀ころの人、ガウタマ=シッダールタ(釈迦)は、儀礼や形式を重視する(6))の姿勢を批判し、正しい道をおこなえば人は平等にさとることができる(11))を創始した。(11))は、数百年にわたって南アジアで多くの信者を獲得したが、やがて、バラモン教と各地の民間信仰が結びついて体系化された(12))にとってかわられた。(11))の教えは、2～3世紀ころからつくられるようになった(13))とともに、中国・朝鮮半島をへて6世紀には日本にも伝わり、日本人の信仰や精神に大きな影響をあたえた。

イスラーム文化の浸透

10世紀後半以降、(14))のムスリム(イスラーム教徒)の政権である(15)

)や(16)が、たびたび北インドに侵入するようになり、13世紀にはデリーを中心とする(17)が成立した。平等を説くイスラム教の教えがしだいに身近なものとなると、身分が低い人々のあいだでイスラム教に改宗する人が多くなった。こうしてイスラム教が根づいた北インドは、イラン高原や中央アジアなどムスリムが多く住む地域との交流を深め、(12)徒が大半を占める南インドとは、かなり性格の異なった社会を形成するようになった。

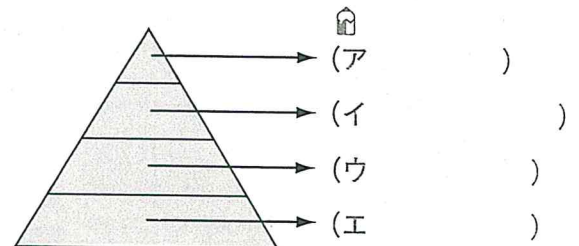


資料 大乘仏教～法華経より～

私が仏を得てよりこのかた、^{へた}経るところの^{こう}劫数は、無量百千万億載阿僧祇なり。常に法を説きて、無数億の衆生を教化して仏道に入らせた。それよりこのかた無量劫なり。衆生を救わんがための故に、方便して^{ねはん}涅槃を現すも、しかも実は滅度せずして、常にここに住して法を説くなり。
 (『妙法蓮華経』如来寿量品第十六)

私が仏となってから無量百千万億載阿僧祇という、とても長い時間が過ぎた。常に仏法を説いて、数え切れない多くの人々を教え導いて仏教の道に入らせた。それから今日までも長い時間が過ぎた。私は人々を救うために、方便として死んで(涅槃を)みせたが、実はこの世界に留まっていて、仏法を説いている。
 (天台宗や日蓮宗で葬儀の時などに読まれる「自我憐」といわれる部分)

ヴァルナ制(カースト制度)



カースト外 アンタタッチャブル

カーストとは、色を意味するヴァルナと呼ばれる身分的上下観念からうまれた。現代のインドでは、生まれを意味するジャーティという言葉が使われている。

●豆知識……シヴァ神

シヴァ神は破壊の神とされるが、暴風雨のように風水害と恵みの雨をもたらすという二面性を持ち、信仰の対象となっている。妃は多くいるが、パールヴァティーとの間の息子が、ガネーシャである。仏典では、大黒天自在天とよばれる。

●豆知識……～おシャカになる？～

日本では失敗して使えない作品のことを「おシャカになる」といいます。これは、仏教の教義とは関係がなくとも仏像づくりのことのようです。需要が多い阿彌陀仏は、光背(背中にある丸い輪)があり、これがうまく出来ずに、壊れてしまったとき、もうこれは釈迦仏像(光背がない)にしか使えない、という意味で失敗作をおシャカになるとよんだようです。

資料 身近なインド～ヨーガ～

ヨーガの諸部門を修行してゆくにつれて、次第に心のけがれが消えてゆき、それに応じて英知の光が輝きを増し、終には^{べんべつち}弁別智があらわれる。
 (『ヨーガスートラ』第13頌 番場裕之訳)

ヨーガは修行によって絶対者との合一(ヨーガ)をめざすものだが、呼吸を深く繊細にととのえていくことで、心が安定していくといった健康法として日本でも定着している。

調べてみよう！

- ◆ インドのヒンドゥー教徒は、ガンジス川について、どのような思いがあるのか、調べてみよう。
- ◆ ガンダーラ仏は、どこの影響を受けているのか、それはどこでわかるのか、調べてみよう。



(オ)) (カ))仏

